

## ISO/TC225 WG3 第1回国際会議 参加報告

ISO20252 認証協議会 委員長 一ノ瀬 裕幸  
同委員 浅野 怜祐

### 1. 国際会議の概要

新たに提起された”Web analysis”の ISO 化に向け、TC225/WG3 の第1回国際会議がウィーンで開催された。

日 時： 2014年9月29日(月)～30日(火)  
会議名： ISO/TC225 WG3 第1回国際会議  
参加者： WG3 メンバー (7カ国+1 オブザーバー機関、計14名参加)  
Convenor: Mr. Erich Wiegand (ドイツ ADM 代表)  
Secretary: Mrs. Annette Altenpohl (オーストリア ASI 事務局)  
参加国： 日本 (一ノ瀬、浅野：2)、イギリス(1)、カナダ(1)、スペイン(1)、オランダ(2)、  
ドイツ(WG2 議長国：3)、オーストリア(2)、ESOMAR (オブザーバー：2)  
場 所： ウィーン Austrian Standards Institute 会議室  
(※ なお、日程的に米国 CASRO の年次総会と重なり、USA は不参加)。

### 2. 討議／決定事項

- ① オランダ市場調査協会 (MOA) の提案をベースとしたドラフトに関する各国からの意見について討議し、改めて WG3 としてのドラフトを再整理することとした。  
2次ドラフトについては、議長の Erich 氏と事務局、およびカナダとオランダの代表が小委員会を組織して作業にあたることを確認した。
- ② 今回の提案規格の適用範囲 (Scope) については多々議論が寄せられたが、まず規格のタイトルにつき、Web Analysis に Digital analytics を追加して、"**Digital analytics and web analyses in market, opinion and social research - Vocabulary and service requirements**" とすることを確認した。
- ③ 一方で、ISO 規格の原則としてできる限り明確に適用範囲を絞り込むことが求められ、今回は顧客企業が保有するビッグデータ (定義はさまざまに確定しがたい) は含まず、インターネット上で個人が生成するコンテンツを市場調査の目的で収集 ("Passive digital data collection" : 受動的デジタルデータ収集)、分析、報告することに焦点をあてることとした。
- ④ 規格案の内容面では、日本から提起した追加項目のうち、以下の3点が盛り込まれることとなった (英文の表現については小委員会に委任)。
  - ・ 対象者の匿名性を確保するために、他のデータを組み合わせた場合にも個人が特定できないように維持する仕組みを提案すべき
  - ・ 分析目的外で意図せず取得してしまった情報 (スマホ経由の画像情報から得られる位置情報など) については、データクレンジングの段階で現データファイルから削除する等の対策を講じるべき

- ・ データ保管期間が終了したら、顧客と合意した方法に従ってデータを廃棄する。また、廃棄の記録を維持する

※) なお、その他にも提案を行ったが、あるものは内容が実務的で細かすぎたため、改めて整理の上で次回以降にもう一度提出することを検討する。また、ドラフトの一定部分が丸ごと差し替えになったため、検討対象外となったケースなどがある。

- ⑤ 既存規格との関係性について、今回の提案規格が ISO20252 の一部または関連したものとなるべきという点で参加国の意見は一致していたが、当 WG3 の対象範囲ではないとされ、TC225 として別途検討してもらう手順等については確認されなかった。

(この点については今後さらに確認の必要があるが、休憩時間に聞いた話では ISO26362 の改訂案件もまだ事務局の引受国が決まっていないとのことであった)。

- ⑥ この後、12 月初旬には 2 次ドラフトが回覧され、2015 年 2 月末までに再度各国からのコメントを募る。

### 3. 今後の作業スケジュール

- ① 2015 年 4 月 16 日～17 日、ベルリン（ドイツ）にて第 2 回 WG3 を開催する。
- ② 2016 年 5 月をメドに、DIS（国際回覧に付すドラフト）作成を目指す。

### 4. 会議の状況と関連情報

#### (1) 適用範囲 (Scope) について

- ・ 討議の中では意見が十分にはまとまらず、「後でまた議論しよう」という流れとなり、議長を含む小委員会に検討がゆだねられる形になったと理解していたものの、送付されてきた議事録には「受動的デジタルデータ収集のすべてをカバーする」など、かなり整理された表現になっていた。この辺の経緯はやや不透明である。

結論としては妥当なものと考えられるが、必要に応じ、次の WG3 会議で日本としてさらに意見表明を行うことは可能である。

#### (2) WG3 への期待度合い

- ・ 今回の Web Analysis 規格提案の背景として、欧米のオンライン市場調査会社からの要請が強かったことが説明された。日本では、必ずしもインターネット上のソーシャルメディア等を通じた個人発信情報の収集・分析が当業界のメジャーなビジネスにはなっていないと思われるが、欧米では重要な関心事のようである。

逆に言えば、日本でもこうしたニーズの取り込みに力を入れることで、新しい市場を開拓していける可能性があると思われる。

#### (3) ISO20252 との統合見通しはまだ不明瞭

- ・ 日本だけでなく、各国から「ISO20252 ファミリー規格」として整理したほうがよい、との意見が出ていたが、今後どのように検討していくのか、対応体制はまだはっきりしていない。

検討を進めるには、その事務局を引き受けてくれる国（WG3 の場合はオーストリア+ドイツの規格協会）が必要なのだが、現時点では引き受け手が決まっていないためである。財政

的な見通しが立っていないことが背景の1つのようであり、各国での認証の仕組みがより整備されていくことが期待されている。

- その一方で、ISO20252の記述をほぼそのまま引用することを決めた箇所があるなど、ISO20252との連動性は明らかであり、早急な方針決定が望まれる。

以 上